

## 平成21年度第1回多摩市立学校給食センター運営委員会要点会議録

【日 時】平成21年6月26日(金) 午後3時～5時

【場 所】多摩市役所 302会議室

【出 席】出席12名

【欠 席】渡部委員・鎌田委員

### 1. 教育長挨拶・委嘱状交付

### 2. 委員自己紹介

### 3. 職員自己紹介

### 4. 議題

#### (1)会長・副会長の選任について

会長は和田中学校の鈴木校長、副会長は鈴木委員が選ばれた。

#### (2)学校給食費会計監査委員の選任について

東寺方小学校の増田校長と多川委員が選ばれた。

#### (3)議事運営について

資料に基づき、傍聴人の注意事項等の説明がされた。

Q：傍聴人は10名以内とあるが、あらかじめ申し込む必要があるのか。

A：直接、来ていただいかまわない。会場の都合で原則10名となっているが、そのときのスペースなどの状況で判断させていただく。

ここから、傍聴人の入室が許可された。

#### (4)学校給食の運営のあり方について（諮問）

- ・教育長から会長へ、諮問書が読み上げられ、手渡された。
- ・教育長から運営委員会の発足と諮問に当り、挨拶があった。
- ・事務局から、諮問書の補足説明を行なった。まず、学校給食センター運営委員会は給食センターの運営に関する諮問事項について審議することが規則に定められていること、諮問事項（1）は、給食センター業務の一部民間委託化についての是非を議論するということ、（2）は、是とな

った場合、安全でおいしい給食を提供するためには、どの業務を民間へ委託すべきか、(3)は、民間委託化の際に留意すべき事項を議論していただきたいということ、答申期限は、平成22年1月であることを述べた。また、現在に至るまでの経過についてだが、『多摩市行財政診断白書』で多摩市の全ての業務のチェックを行い、『多摩市行財政再構築プラン』で、それを受け各々の仕事について検討した。その中で学校給食センター運営の改革の方向性ということで、民間委託等、効率的な運営を検討するということが明記された。

児童・生徒数は、昭和62年に2万人強をピークに現在は1万人弱となり、3センターを2つにし、調理所の改修工事を実施し、食器を強化磁器食器に変え、今日に至っている。

その間、民間委託について検討した。情報収集として、現在、委託を行なっている自治体から話を聞いたり、視察をしたりした。また、業者から見積書を取ったり話を聞いたりした。

こうした中で、民間業者であっても、安全で、おいしい給食を出せる、コスト削減も可であり、効率的な運営が可能である、民間の力を借りながら、子供たちにとって、おいしく、楽しい給食の提供は可という結論に事務局が達した。そして、教育委員会、議会の子ども教育常任委員会にも報告しながら進めてきた。

給食センターは献立作成から運搬まで業務が多岐にわたるが、どの範囲まで委託するかという問題の検討と、もう1つは、現在、民間委託している自治体でも、非常に上手くいっている所とそうでない所があり、業者を選ぶに当たっての留意事項等について、十分に議論を詰めていかなければならないという結論に達した。

業者を決める際、価格で決定するのではなく、プロポーザル方式という企画提案をしてもらう方法が良いと考えている。

それらのことを教育委員会内で決めるのではなく、学校給食センター運営委員会に諮問し、委員会内で協議し、答申をいただいて、進めていくことが教育委員会で議決されたという経緯である。

円滑な移行も大切なことと考えている。平成23年4月から8月までの準備期間を設け、民間の優秀な職員を集めて、作業に習熟してもらう。

また、二つの調理所のうち一方の調理所のみ民間業者に委託する背景としては、現在、正規職員の退職者の補充はせず、非常勤一般職を雇用しており、そうしたことを続けると正規職員は非常に少なく、非常勤一般

職が多くなり、そういった中で調理をするのは如何なものかというのがあり、平成 23 年くらいには、一方の調理所に正規職員を集め、一方を民間委託で運営することを考えている。

全てを民間に任せるのではなく、重要な献立作成、食材購入、検収作業等は現在携わっている栄養士が行なう事を考えている。

続けて、資料を基に、現在の多摩市の学校給食の概要について、説明をした。

また、昭和 57 年から民間委託で共同調理場を運営している小平市の概要を紹介した。

以下、質疑応答である。

Q: 説明を聞いて、子供たちのために、細かく気を使って給食を作っているのが本当に良くわかった。ありがとうございます。

民間委託については、全くわからない状態である。

都内でどの程度行なわれているか。よい点、悪い点等、資料を今後いただけるのか。

A: 今回は、当市の学校給食の概要を知ってもらい、今後、民間委託のメリット・デメリットをお示ししたいと思う。

全国では小中学校合わせて、約 23% が民間委託である。年々増えている。メリットとしては、おいしい給食を作るには、一手間かける必要があり、民間の場合、朝早く出勤する勤務体制を組むことができ、手の込んだ給食、一品多い給食を出すことができると言われている。

また、全国展開している業者には、豊富な人材をもっている。いろいろな場所で業務を展開しているので、郷土料理等のレシピを持っている業者もある。

一般論だが、直営にもメリットはあると思う。長期に雇用することによって、経験の蓄積がある。反面、人件費が上がるという面は避けられない。正規職員が退職した分、非常勤一般職を雇用しているので短期的には大幅なコスト削減は難しいが、長期的なスパンでみると、民間委託の方がコスト削減になる。

ただ、ここで申し上げたいのが、コスト削減が第一目的ではない。

『行財政再構築プラン』にあるように、コスト削減も確かに目的の 1 つではあるが、より良い給食を提供するのが目的である。そのため、民間のノウハウを活かしたい。

前橋市、小平市、日野市など、既に民間委託している所で、運営が上手くいっていると聞いている。

直営のデメリットとしては、職員の勤務場所は調理所に固定されてる。春、夏休み等の間、給食はないが、勤務をして、釜・食缶の補修、機械の整備等の作業を行っている。

調理がない期間、民間であれば、必要な作業後休んでもらうことが可能である。。

Q:『多摩市行財政再構築プラン』の中で、民間委託等効率的な運営について明記されたとあるが、これはどういったものか。

A:『多摩市行財政診断白書』では業務のチェックを行い、最少の経費で最大の効果をあげるため、『多摩市行財政再構築プラン』で、それを受け各々の仕事を検討したものである。

Q: 資料の1ページに食材料に関わる部分を保護者が負担し、運営費を設置者が負担するとあり、給食費は安く抑えられているので、運営に関わる部分をセーブし、お金が掛からない、より良いサービスを行なうということ、運営委員が検討していくということか。

A: その通りである。

要望: 今後の日程について、早めに知らせて欲しい。

事務局: そのようにしたい。

Q: 中学校 PTA の役員会で、運営委員会の報告や資料の公表をして良いか。

A: 本会議については公表してかまわない。要点会議録については、ホームページでアップする予定である。

Q: 給食費の収入は基になるものであり、その部分がきちんとしていないと、コスト削減どうのこうのではないと思うが、収入率はどれぐらいか

A: 平成 19 年度の現年度の収入率は、98.73%である。

Q: 現在、多摩市は、地域が調理所ごとに二つに分けられているが、今後、片方が直営、片方が民間委託となった際、検討したい点だが、残菜の記録を知りたい。

A: 次の運営委員会で用意する。

◎ その他

1. 平成 21 年度会議日程について、資料の通り報告した。

※ 次回の運営委員会は、内容は小平市共同調理所の見学、日時について7月10日(金)または15日(水)で委員の都合を伺い、10日に決定した。